

日本一絆一モンゴル

2019年2月発行

日本モンゴル障がい児交流会代表 日本サーバス近畿支部長 発行

月日の経つのは早く2019年も2月になりました。1月は京都にも雪が降りました。臘梅や水仙に続いて梅便りが待たれるこの頃です。

皆様には、日本モンゴル障がい児交流にご協力を頂き、本当に有難うございます。

2018年実施の日本での交流会については報告集でお伝えしましたが、その後の事をお届けします。お暇な時、お目通し頂けたら嬉しいです。

今までの経過と今後について

モンゴルとの交流は、2013年のサーバス（相互理解を通じて世界平和を実現する事を目的とした国際ホームステイグループ）東アジア会議でモンゴルのサーバス会長 Hi さんに「モンゴルの障がい児は義務教育の枠外におかれている。その状況を何とか良くしたい。そのため日本の障がい児教育について色々教えてほしい。先ず初めにモンゴルに来て実情を見てほしい。」と言われたのがきっかけでした。求めに応じて2014年 Ht 他3人でモンゴルへ行きました。「教育の内容以前に社会で障がい児・者をどのように受け止めるかが課題」だと思いました。同じ年、Hiさんが日本に来られたので、障がい児教育の関係者に会い、関係機関を見学してもらいました。「是非モンゴルの関係者で研修に来たい」という事で実現したのが、日本サーバス主催の2015年日本での障がい児教育研修でした。日本でも障がい児・者施策の前進には本人や家族の力が大きいです。モンゴルの方たちの障がい児教育研修で、子供たちに良き未来を作っていくためには、モンゴルと日本の障がい児・者家族が強く繋がり合い、励まし合っていく事がとても大切だと思いました。その後の障がい児・者家族が参加して行ったモンゴルとの取り組み(2016年モンゴルでのキャンプと2018年日本での交流会)はそれを大きな目的としました。2015年の研修の時にモンゴルの方がステイされたのは近畿サーバスの会員宅でしたが、2018年の交流会の前後にステイされたのは、サーバス会員宅ではなく、キャンプに参加した障がい児家族宅でした。両国の家族同士はキャンプで知り合い、その後はメール等のやり取りも通じてこんなに関係が深まったのです。この関係は2018年の交流会で更に深まりました。交流の内容も当然のことながら、障がい児に焦点が当たるようになりました。交流を主催したのはキャンプを機にサーバス近畿支部が中心になって立ち上げた日本モンゴル障がい児交流会でした。障がい児に焦点が当たるようになった現在、サーバス近畿支部が中心になるより、障がい児や家族、又、障がい児関係の専門家等、交流会参加者が中心になる方がよりニーズに叶えます。それでサーバス近畿支部が中心になって立ち上げ、運営してきた日本モンゴル障がい児交流会は家族通しの関係を繋ぐという役目を果たしたという事で終了にし、今後は今までの交流に参加してきた者達を中心に交流を行う事になりました。勿論、サーバスもモンゴルと縁が切れたわけではありません。今夏モンゴルでサーバス東アジア会議が行われ、私も参加しようと思っています。モンゴルサーバスの会長は Hi さんですし、この交流に参加しているモンゴルの他のメンバーも、サーバスの会員の方がいられます。今後は国際サーバスの加盟国として、モンゴルサーバス、日本サーバス、又サーバス近畿支部も障がい児を含む全ての人の幸せを願い、活動を進めていきたいと思っています。

資金面でご支援して下さっている皆様には、今後も必要に応じてご協力をお願いするかと思いますが、どうか今後ともご支援、ご協力をよろしく願います。

ご縁を繋いで

モンゴルでのキャンプに際して私たちの T シャツのデザインをして下さり、日本での交流会では横断幕をデザインして下さいました私たちの活動の協力者であるプランディグデザイナーの Nh さんより電話がありました。「今自分の会社で発達障害の方の季刊誌にデザインをしている。そのデザインについて、私たちの活動に専門的なアドバイスを下さっている Kr 先生にアドバイスを頂きたい」という内容でした。

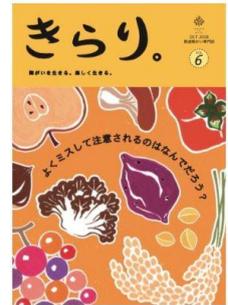


早速 Kr 先生にお伺いした所、快く応じて下さり、1月の末、Kr 先生、Nh さんと会社でデザインを担当されている Ms さん、本を出版されている Am さん、Ht の 5 人でお会いしました。Am さんは今まで出版された本を持って来られました。「きらり」という題名の本です。思わず引き込まれるような楽しく素敵な本でした。Kr 先生は今まで見た雑誌の中で 1 番良い本だと褒めて下さいました。「この本が広がって皆が障がい児をよく理解出来たら良い。」とおっしゃって、本の紹介先をいろいろ考えて下さいました。私もぜひ広めたいと言う気持ちになって、早速本を 10 冊注文しました。本の装丁も Nh さんの会社の方が担当されるようになってからは一段と楽しそうで、内容が生き生きと伝わってくるように思えました。多くの人にもぜひ本を紹介したいです。日本においても障がい者がより住みやすい社会になるよう、皆で協力して行けたらと思っています。



Am さんのプロフィール

はじめまして「きらり」編集長兼発行者の Am と申します。私は 2003 年 24 歳のときにうつ病になり、その後 10 年間治らなかったことがきっかけで検査したところ「発達障がい」(アスペルガー症候群、広汎性発達障害、注意欠損多動性障害)と診断されました。34 歳の時でした。現在も、双極性障がいと発達障がいの投薬治療をしながら生活しています。



思い返せば、幼児期からすでに特性がありました。じっとしていられない(多動)、思いついたら即行動(衝動性)、おっちょこちょい(不注意)、偏食、極端な思考、無口、ひとり遊び・行動、他人のことが理解できない等、当てはまる特性がずらり。

友人作りや就職活動がうまくいかず、幼いころから体調不安定でうつ傾向になりがちな子供でした。発達障害と診断されたとき「ああ どおりですと生きづらいはずだ」とようやく自覚しました。私の困りごとが「生まれながらのもの」だと受け入れることができたおかげで、ようやく人生がプラスに進んだような気がしています。

2017 年 2 月に株式会社みのりの森を設立し、4 月から季刊誌「きらり」を発行し始めました。「みんなが実りある人生を送れますように」「障がいを楽しみ、明るくポジティブに生きていけますように」という願いを込めて、会社と雑誌の名前を決めました。

障がいを持っていてもハンディを持っていても、みんなが幸せになる権利を持っています。悩み苦しむことは多いかもしれませんが、でも、決してそれだけで人生は終わるわけではありません。正しい情報、適切な支援、よりよい人間関係など、条件を整えばみんなが幸せになれるのです。これらをいかに整えられるかで人生の豊かさが違ってくるのではないのでしょうか。

私はこの発達障がい専門雑誌「きらり」を通して、当事者の方、そのご家族、支援者のみなさんが実りある人生を送れるように手助けしていきたいと思っています。正しい情報、適切な支援、人生の過ごし方、コミュニケーション方法、人間関係の育み方など、必要な情報をわかりやすくお伝えして行けたらと思います。みんなきらりと輝く人生を。

株式会社みのりの森 HP: <https://www.minorinomori.co.jp>